

劇団ふあんハウス

「団長の独り言」

七月十九日(日)

「ワークシヨップ・中盤戦」

「団長の独り言」をご愛読の皆様、こんにちは、鈴木千秋です。所用で東京を離れている団長に代わり、今週も私が担当いたします。

ようやく梅雨が明け、暑い日差しが降り注ぐ季節となりました。わたくしとしては、真夏の太陽には大活躍してほしいのですが、なにせ厳しい暑さ！ギラギラ輝く太陽と仲良くするために、こまめな水分、塩分の補給は忘れず、体調管理をしていきたいです。

さて、七月いっぱい開催中のワークシヨップは中盤戦、少しずつペースを上げ、今月最終週には発表会を行う予定！そこへ向けて基礎から積み上げていきます。

稽古の前半、ウォーミングアップのストレッチと基礎の発声は毎回鈴木が担当しているのですが、この週末は団長が不在のため、予め団長と打ち合わせさせていた、私が全体の音頭を取っていただくわけですが、皆が得意なところで留まらないように意図したの

で、難しく感じたかもしれない。基礎講座とはいえ、私たち劇団メンバーのレベルの底上げも目的ですので、受け身にならず積極的、意識高く取り組んでいきます。

さて、今回のメインイベントは、ウィリアム・シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」です。『おロミオ、ロミオ、どうしてあなたはロミオ？』という名ゼリフがあまりにも有名なこの作品。舞台は十四世紀イタリアの都市ヴェローナ。

長年に渡って対立してきた、モンタギュー家とキャピュレット家。そのモンタギュー家の嫡子ロミオは、身分を隠してキャピュレット家の仮面舞踏会に潜入。

美しい少女と出会い、そしてひと目で二人は恋に落ちるが、その少女こそ敵対するキャピュレット家の一人娘ジュリエットでした。

親同士が敵対関係にあった男女の悲恋を描いているこの作品、禁断の恋とでもいいたしうか。

一九六八年に映画化されたこの作品を初めて観たとき、ジュリエットを演じるオリヴィア・ハッセーがあまりにも可愛らしく魅力的で、また、互いを思う深い愛に感動しました。

切なく美しいニーノ・ロータの音

楽もまた最高で物語を盛り上げるのですよねえ。

ニーノ・ロータと言えばフェリーニの「道」を思い出しますが、話が逸れるのでここでは割愛。

そうそう「ロミオとジュリエット」といえば、その現代劇、ニューヨークの下町を舞台に、イタリア系のジエット団とフェルトリコ系のシャーク団の抗争と、その中で芽生える愛と悲劇を描いたミュージカル大作「ウエスト・サイド物語」も忘れてはなりません。ダンスも歌もカッコ良く、何度目も観ては踊ってみました。

・・・と、「ロミオとジュリエット」を取り上げると、ほとんど話が広がってしまいます(笑)

今回演じるのはロミオとジュリエットの二人の名シーンです。

劇団ふあんハウス公演では絶対にやらないと言われている男女の恋愛劇ですから、どうなるか楽しみに観てみると、「初見だから」「クサイ」と照れながら恥じらいつつ演じる人もいれば、ここぞとばかり役に入り込み、セリフを入れ、思い切り演じる人もいます。

中には真剣にやればやるほど、笑いを取れる人もいて(笑)

とーっても、個性豊かなロミオとジュリエットが現れました。

先日、団長の俳優養成所で同期の吉永博光さんが稽古場にお越しになり、それこそ初見ですが、バシッとカッコ良いロミオを演じてくださいました。

その際、この私が相手役をやらせていただいたのですが、気持ちも乗せられ、さすがプロ！というところを見せてくださいました。私たちも少しでも近づけるように、ならねばなりませんね。

稽古場では、同じセリフでも、団長の演出により、様々な感情を表現することを求められます。

敢えて何パターンも演じることで新たな発見があり、遠回りしているようで、より役に近づくことができます。

本稽古の時は、何度もダメ出しを受け、その都度やり直しをすることもありますが、そこにはたくさんさんのヒントがあり、各自がやるべき役作りの一端を稽古場で実践しているようなもの。

ダメ出しをされるのは大変なようで、実はいかに有難いかということもこの基礎講座で、あらためて感じます。

こんな劇団ふあんハウスの稽古を体験できる今回の基礎講座。

興味のある方はぜひお越しくださいね！